

令和6年度 第1回鈴鹿市障害者施策推進協議会 議事概要

日 時	令和6年7月5日(金) 13時30分～15時00分
場 所	鈴鹿市役所 本館12階 1204会議室
出席委員	藤原、土屋、中澤、長井、鈴木、小山田、岡野、坂、廣瀬、秋葉、太田、吉田、堀、遠藤、長谷川、栗野 (以上16人、敬称略・順不同)
欠 席 者	山野、酒井、水谷
事 務 局	健康福祉部次長兼社会福祉事務所長 小林 障がい福祉課長 福中 障がい福祉G 日高G L 管理G 岡村G L、青山
傍 聴 者	なし

● 議事概要

(司会進行：事務局)

- ・開会宣言(13時30分)
- ・事務局より資料の確認。事項書内容に入る前に、本協議会運営に関する事項の確認として、本協議会及び議事概要について原則公開する旨を説明。
- ・健康福祉部次長兼社会福祉事務所長 小林より挨拶。
- ・委員、事務局の自己紹介。
- ・会長及び副会長を互選により決定。意見なしのため、事務局より会長を指名し、会長が副会長の選任を提案。異議なしのため、会長に藤原氏を指名。

(議事進行：藤原会長)

- ・挨拶の後、副会長に山野氏を選任。議題へ。

議題1 令和6年度予算・令和5年度決算について

事務局より説明。(資料1)

(委員)

- ・障害児通所支援事業の予算、決算の数字に波があるのは何故か。
- ・予算額より決算額の方が高額だが、不足分はどうしているのか。
- ・少子化が進んでいるが、障害児通所支援事業の利用者が増えている理由は何か。
- ・障害福祉サービス事業も金額が増えている理由は何か。
- ・障害児通所支援事業の令和6年度の予算が令和5年度の決算より少ないのは何故か。補正予算ありきということか。
- ・資料に日常生活用具について記載が見当たらないが何故か。
- ・新型コロナウイルスが5類に移行して、各サービスの利用者数も増えているため、令和6年度も補正が必要になると思われる。
- ・1ページの歳出予算の民生費の詳細を教えてほしい。

(事務局)

- ・障害児通所支援事業に関しては、利用者数と利用者1人当たりのサービス量の増加を理由に毎年10%前後増加している。
- ・予算が不足する場合は補正予算で対応している。
- ・5歳児検診を開始し、発達支援を丁寧に広くサポートできる様になったため、利用者

が増えている。

- ・障害福祉サービス事業に関しても、障がいのある方が年々増えており、3～4%金額が増加している。特に精神と知的の方が増えており、理由として精神は社会情勢、知的は以前より隠すことなく適切な治療・支援を受けることが一般的になっているためと考えられる。サービスとしてはグループホームと就労系サービスの利用者が増加している。
- ・予算については、予算総額が限られているため全体の調整でこの予算額となっている。補正予算で対応していく。
- ・主な事業のみ記載のため日常生活用具については記載していない。
- ・民生費の細かい金額の用意はないが、医療・福祉系の予算であり、障がい、長寿、生活保護、国民健康保険、福祉医療等の事業費となっている。

議題2 すずかハートフルプランについて

第3期障害者計画の施策推進状況の報告について

事務局より説明（すずかハートフルプラン 2029・資料2）

（委員）

- ・評価について、「予定通り」という表現が多様な捉え方があるため、達成や未達成という様な表記に改めてはどうか。
- ・整理番号 14 内容と実績に矛盾がある様に感じる。業務実績は施設予約のことしか書いていない。バリアフリー等、実際の利用に関することも記載すべきでは。
- ・整理番号 19 「市窓口への手話通訳者の適正配置を図る」に関する実績の記載がない様に見受けられるがいかがか。
- ・整理番号 71 実績に「備品購入費用の助成」と記載があるが、この様な事業を始めて知った。周知が足りないのではないか。広報等で広く周知すべきではないか。
- ・整理番号 10 実績には社会福祉協議会との共同事業についても記載しているのか。
- ・整理番号 19 新規採用職員研修は研修を実施した実績ではなく、その成果まで記載するべきではないか。
- ・整理番号 23 「予定通り」という評価は数のことを指すのか、事業の進捗状況を指すのかが分からない。数値を掲載している実績は達成率も記載していただきたい。若手のボランティア育成が急務とを感じるので、そのあたりを詳細に記載してほしい。
- ・整理番号 71 内容に「障がいのある一人一人ひとりのニーズに応じた支援を提供」とあるが、ニーズ調査をしているのか。福祉避難所は通所者・入所者が優先されると思うが、自宅で過ごす障がい者が入りやすい様なシェルター等を作る計画はないのか。
- ・整理番号 78 通常のコミュニケーション支援事業だけではなく、災害時支援事業も掲げてはどうか。災害があった際は支援者も同じ被災者になるので、情報保障の考え方があると関わりやすくなると思う。
- ・整理番号 105 市内でA型作業所が少なくなったと聞いている。その様な状況で就労支援ができるのか不安があるがいかがか。

（事務局）

- ・数値目標を定めていないので、従来から「予定通り」という表現としている。今後の表記方法については事務局で検討する。
- ・内容についてソフト面・ハード面の様々な課題があるが、今回の業務実績にはあくまで令和5年度に実施した取組のみ記載している。運動施設はハード面ではなく予約システムの周知を行い、手話通訳については常時募集を行っているが応募がなかったため適正配置については未記載である。引き続き募集をかけている。

- ・安心生活応援事業の「備品購入費用の助成」は事業所への助成であり、一般の方への助成ではない。
- ・福祉教育の推進について、社会福祉協議会との共同事業も含んでいる。
- ・新規採用職員研修の研修効果までは測っていない。今年度も研修を実施予定であるため、担当課に伝え、効果について測っていく。
- ・若手ボランティアの育成については、社会福祉協議会と協力して積極的に取り組んでいく。
- ・福祉避難所について、ニーズ調査はできていないが、今年度から高齢者の方も含めて個別避難計画を着手していく。
- ・コミュニケーション事業の提案については、市単独ではなく広域的な対応を要するため、県や近隣の市町と協議していく必要がある。
- ・経済状況や報酬改定等で経営が厳しいところが多く、全国的に見ても縮小や撤退する作業所が多いのも事実であるが、ハローワークとも連携し丁寧にアセスを行うことで、着実に就労数は増加している。引き続き就労支援に取り組んでいく。

【ハローワークの近況】

- ・鈴鹿市と亀山市の法定雇用率は令和5年度 2.48%、令和4年度 2.29%で 0.19 ポイントの上昇。令和3年度は 2.07%で、令和4年度は 0.22 ポイントの上昇。一般企業を含めて障がい者雇用に力を注いでいただいている。障がい者雇用に優良な事業所に表彰も行っている。
- ・資料1のとおり今年度も障がい者の就職面接会を開催予定。令和5年度は 23 社の参加、154 件の面接で 15 人の採用があった。令和4年度の採用人数は 14 人。それまでの採用人数は一桁台であったので、着実に増えている。今年度も 20 人以上の採用を目指す。

■鈴鹿市障害者差別解消支援地域協議会 事務局 報告する事例なし

その他、意見なし

(会議終了 15:00)